

牛群検定通信 No132

～ 春になって漏乳する牛や体細胞数が増えていませんか ～

春になって寒さが和らぐと、水温も上昇することから飼料摂取量も増え、乳量が増加するとともに毛艶も良くなって、牛は調子が良くなったように見え、酪農家はほっとする時期でもあります。しかしながら、牛の調子の良さと裏腹に一部の牛では体細胞数が増えたり、乳房炎になったりします。これはどうしてでしょうか。

これはカルシウムが関係しています。カルシウムは皆さんご存じの通り牛乳に多く含まれ、乳量が増えるということは牛の体から多くのカルシウムが出て行き、牛がカルシウム不足になっていることを意味しています。カルシウムの働きを考えてみますと、カルシウムは筋肉を動かす時に重要な役割を果たしており、カルシウムが不足すると筋肉の動きが緩慢となり、歩行がゆっくりとなったり、ルーメンの動きも鈍くなったりして、飼料摂取量が少なくなったりします。

一方で、カルシウムと乳房炎との関わりを考えてみますと、これには乳頭の構造が関係しています。

乳頭の先端には乳頭括約筋という筋肉があるのですが、搾乳中はこれが開いて乳汁を排出し、搾乳以外の時はしっかりと閉まって乳汁を排出しないようになっています。つまり、搾乳以外の時に乳頭括約筋がしっかりと閉まることで漏乳を防ぎ、病原菌の乳房への侵入を防いでいるのです。乳量が増え、牛のカルシウムが不足すると乳頭括約筋も筋肉の一つですから動きが鈍くなり、搾乳以外の時に締まりが緩くなり、漏乳したり、開いている乳頭口から病原菌が入り乳房炎になり易くなります。ですから、搾乳前などに漏乳している牛はカルシウム不足で乳頭括約筋が緩んでいて乳房炎にかかる直前の牛ということができますので、注意しましょう。

これを防ぐには、カルシウムの給与量を増やさなくてはなりません。カルシウムは牛の消化吸収の構造上一時期に多量に給与しても吸収できませんので、繋ぎ牛舎ではカルシウムの給与回数を増やして吸収量を多くしなければなりません。TMR飼料給与の場合は漏乳する牛がいなくなる程度までカルシウムの割合を増やす必要があります。カルシウムに限らず、牛は調子の良いときに落とし穴があるものです。注意しましょう。

○ 牛群検定の活用動画ビデオ公開中

牛群検定の活用動画を新たに2編作成しました。どなたでも面倒な手続きなしで無料でご覧いただけます。どうぞご視聴ください。共に20分程度です。

- 1 牛群検定情報の活用 ～乳量編～
- 2 牛群検定情報の活用 ～乳成分編～

http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/kentei_s2.html

なお、次の3編も公開しています。併せてご視聴ください。

- 3 牛群検定情報の活用 ～体細胞数編～
- 4 牛群検定情報の活用 ～繁殖編～
- 5 牛群検定情報の活用 ～ボディコンディションスコア編～